

NEWS RELEASE (2020年1月20日)

「ヒトレトロウイルス学共同研究センターキックオフシンポジウム」 の開催について

報道機関各位

いつも本学の報道に関しては大変お世話になっております。

平成31年4月1日に鹿児島大学の「難治ウイルス病態制御研究センター」と熊本大学の「エイズ学研究センター」を統合・再編した新しい組織「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」の設置を記念するキックオフシンポジウムを下記のとおり開催しますので、当日の取材方よろしくお願いたします。

記

1. 日時: 令和2年1月24日(金) 13時00分～17時30分
2. 場所: 鹿児島大学鶴陵会館大ホール(鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号)
3. 式次第: 別添資料のとおり

■キックオフシンポジウムの概略

ヒトレトロウイルス学共同研究センターでは、主として一生涯感染が続き排除困難であり、これらの感染症の根絶が世界的に課題となっている3つのウイルス、すなわち HIV-1(エイズウイルス)、HTLV-1(ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型)、HBV(B 型肝炎ウイルス)による感染症の病態と治療法に関する研究を目的としています。そこで、今回のシンポジウムでは、各ウイルス感染症の世界的権威である3名のシニア研究者と、HIV-1 感染症に関する若手研究者のホープを鹿児島にお招きし、それぞれの感染症に関する最新の研究動向や成果についてお話頂く予定です。また、熊本大学キャンパスと鹿児島大学キャンパスの各キャンパス長から、それぞれのキャンパスと研究内容についてもご紹介させていただきます。

なお、本シンポジウムは全て英語にて行われます。

今回お招きする4名のシンポジストについては、以下の通り簡単にご紹介させていただきますが、このような卓越した研究者が、鹿児島に一堂に会する機会はこれまで皆無であり、今回のシンポジウム開催には大きな期待が寄せられているところです。

【4名のシンポジストのご紹介】

[英国 Imperial College London の Charles Bangham 博士]

ウイルス学者及び免疫学者であり、HTLV-1 に関する研究領域の第一人者。HTLV-1 が細胞間を伝播していくメカニズムや HTLV-1 ウイルス遺伝子から一過性及び爆発的に転写が起こること等、HTLV-1 に関して多くの先駆的な発見をしています。

[米国 Emory University School of Medicine の Stefan Sarafianos 博士]

レトロウイルスの構造生物学者であり、HIV-1 の増殖を抑える低分子薬剤の開発及びこれら薬剤に対する薬剤耐性ウイルスに関する研究の第一人者。近年は新規核酸系逆転写酵素阻害薬 EFdA の開発に加え、HIV-1 カプシド蛋白質の構造及びそれに結合する化合物の同定等、幅広い分野で重要な報告をしています。

[国立感染症研究所所長の脇田隆字博士]

肝炎ウイルスを専門とする世界的なウイルス学者。脇田博士は、C 型肝炎ウイルス(HCV)の感染性粒子を培養細胞で作製することに世界で初めて成功しました。これは HCV 研究の中で最も大きな成果の一つと評価されています。また、感染性 HCV の開発は HCV 受容体の発見へとつながりました。さらに現在、脇田博士は治療困難な HBV の研究にも精力的に取り組んでいます。

[米国 Weill Cornell Medicine の Guinevere Lee 博士]

HIV-1 の遺伝学における若手トップリーダーの一人。Lee 博士はこれまでに、HIV-1 の新しい遺伝子解析法を開発し、HIV-1 遺伝子の多様性が臨床での治療成績に与える効果について、数多くの先進的な成果を得ています。

以上。
